

無差別・平等の医療と福祉
の実現をめざしています



船橋二和病院ホームページアドレス
https://www.futawa-hp.jp



船橋二和病院
船橋二和病院健康友の会
〒274-0805
千葉県船橋市二和東5-1-1
TEL 047(448)7111(病院)
TEL 047(449)4417(健康友の会)
発行責任者 加藤伸次
月一回発行 1部 50円

二和病院建設運動にかかわった思い出

インタビュー

前編

話し手：柏木文代さん（船橋市二和東在住） 聞き手：編集部（松村真子）



柏木 文代さん

今から44年前の1981年当時、船橋の北部地域は病院がない医療過疎地域でした。その地域に病院をつくらうという千葉民医連の方針と、かねてから「患者の立場に立つ自分たちの病院がほしい」という地元の人たちの切実な願いが重なった運動によって1981年5月1日、船橋二和病院が誕生しました。当時を知る人が少なくなる中で、今回、病院建設運動にかかわられた柏木文代さんから貴重なお話を伺うことができましたので紹介します。

100歳を迎えられた柏木さん

「本日はよろしくお
願いします。まずはじ
めに100歳おめでと
うございます。」

柏木 ありがとうございます。100

歳なんです。私の中で1
00歳になったという実
感が何にもないの。大変だ
と思わないし、困ったなど
思わないし、何にもないで

普通なんです。もうちょ
っと構えて生きていくと
いけないのかもしれない
けど、構えることはあま
りない……。

それが長生きの秘
訣なのかもしれないで
すね。

柏木 あんまり深刻に考
えないのいいのかもね。

新京成沿線に病院を つくらうとなつたきっかけ

「病院ができる前は
どんな地域でしたか？」

柏木 当時住んでいた丸山
には開業医が2件ばかりあ

っただけ、医療センターも
できる前で、この地域には
病院がなかったの。
それで仲間のなかでどう

船橋は病院をつくる運動の 「潜在的な力」があった

「運動では、地域の
人に「こんな病院」を
つくらうと伝えてい
たのですか？」

柏木 そう。それまでも
「私たちの本のために
なる病院をつくりたいね」
という話はあちこちから
出ていたので、「患者さん
の立場に立つ良い病院をつ

くらう」と呼びかけました。
船橋という地域は、婦
人や農民、生協、団地自治会、
労働組合など、様々な団
体の活動が活発に行われ
た地域でした。いわゆる
主体的な運動をされてい
た方が船橋は多かった
ので、病院をつくる運
動の「潜在的な力」があ
ったと思うんです。



▲建設当時の二和地域。右奥の白い2階建ての建物が当時の二和公民館（現埋蔵文化財事務所）

▼構造現場見学会①



だから「偉
い人がいてこ
ういう風にや
らう」と言っ
て来た」とか
「あの人がポ
ンとお金を出
して出来た」

「よく、柏木さんと
か昔からの友の会の方
からお話を聞くと、「自
分たちがつくった病院
なんだ」っていう誇ら
しさみたいなものを感
じるんですが？」

柏木 やっぱ、病人がい
て、困っている人を見ると
何とかしたいという、み
んな「他人事じゃない」
という人が集まって力を
合わせたんじゃないでし
ょうか。

「周りの人のために病
院をつくりたいと頑張
っていたことに誇りを感じ
ていたのですか？」

柏木 そうそう。自分の要

（次号：後編につづく）

しても民医連の診療所をつ
くりたいという話になっ
て、当時船橋市南本町にあ
った南浜病院（二和病院開
設後診療所に。現在は南浜
ファミリークリニック）に
いらした高橋稔先生（初代
二和病院院長）に相談して
いたんです。

完成後病院からすこやか薬局方面を望む



多くの人との出会いと運動が きたからこそできた病院づくり

「柏木さんご夫婦が
高橋先生と出会ったの
は、どこでしたか？」

柏木 南浜診療所がある都
疎浜（とそはま）という
ところでした。戦争末期に
東京から疎開してきた都
疎浜で、そこに様々な運
動の経験をした方がたく
さんいらした。それで
医療だけでなく、い
ろんな教育とか子育て
が、そういう運動にも
広がって、先生と懇談
会やろうとか、もとも
と船橋では農民の運
動も盛んで、様々な
運動が広がって結び
つきも広がったの

「つながりができ
ると、また新たに「こ
ういう運動をしてみよ
う」ということが広が
る中で「病院をつくり
たい」という人たちが
集まった感じでしたか？」

柏木 そうです。その力
が一番じゃなかったで
すかね。だって、黙
って見てたんじゃない
で、積極的に参加し
てたんですよね。病
院の方も、建設する
ためのお金や職員
を集める必要がな
いから。そういうこ
とも運動して応援
してききました。



▲構造現場見学会②

求でもあったけど、「地
域住民のため」という
ことがあったから
みんな誇りを持
ってたんじゃない
ですかね。

あなたと民医連をつなぐ月刊誌

いつでも元気

MIN-IREN

2025 6月号 380円

好評発売中

〓集団自決。の島で

沖縄

けんこう教室

内臓脂肪を最速で落とす

ピカドンのドンが聞こえなかった人々

お金をかけない健康法

認知症の予防⑩

まちのチカラ

埼玉県横瀬町

食と健康

はじめての台所

発行＝徳島県民医連研究所

〒113-0034 東京都文京区亀田2-4-4 平和と労働センター8階

電話 03(5842)5656 FAX 03(5842)5657



連載「語り継ぐべき被爆・戦争体験」

二和病院の職員であった伊久万里さんのご了解とご意向を受けて、お母様の手記を掲載します。被爆80年・戦後80年の年、愚かな戦争への道を再び歩むことのないよう平和を守る決意を新たにしたいと思います。

『広島 八月六日』川上悦子 昭和58年執筆

第1回〈序〉

戦後四十年近い長い年月が経ちました。でも私は昭和二十年八月六日の広島 of 悲しい出来事を忘れることが出来ません。空の色・海の色…変わることなく今日まで私も命永らえてきました。

四十年の月日は世の中を大きく変えました。何もかも豊かになり、贅沢になり、戦中戦後生きてきた私は本当に良い世の中になったと思います。なんでも豊富になって目の前にあるのです。そうした奢りが戦争の怖さ、苦しさ、虚しさを忘れさせてしまうのではないか…ふとそんな不安がよぎります。あの時代に生きたものには「我慢」しかありません。耐えることを身につけました。

昭和二十年八月六日、広島 of 修羅場は我慢の極限だったと思います。いま戦争が昔話になり、あの頃の空腹が遠い思い出になりました。原爆で傷ついた人たちは、その「傷」を今なお引きずりながら不安を抱えて生きています。痛みや不安はその人にしか分からない事ですが、戦争の悲劇を知ることによって少しでも被爆者の心が分かるのではないのでしょうか。

広島 of 街も今は美しくよみがえりました。

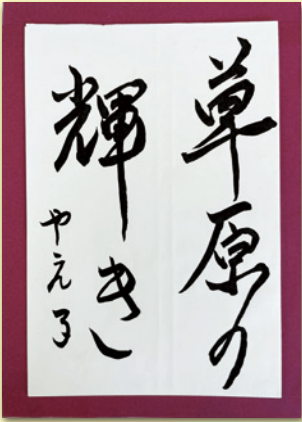


川上悦子さん
大正 15 年生まれ
平成 6 年没

川の流れは昔のままです。街を歩いても当時の瓦礫はひとかけらもありません。見事に変わった広島 of 街に立って目を閉じると、あの日の惨状がはっきり浮かびます。私にとってはまだまだ色あせたものではありません。

昭和二十年八月六日、広島 of 空は晴れ、夏の太陽が照りつける暑い朝でした。この頃は毎日のように敵機 of 襲来があり、怯えていました。長い戦争は日本をこの上もなく貧乏にしました。食料もなく、日用品 of 全てがない時代です。その貧しさは人の心までも潤すことなく乾ききっていました。楽しみもなく、人間同士喜びあうこともなく、毎日が不安と焦燥 of 繰り返しです。この時代に生きた人たちは、みな死を前にした殺伐たるもので、灰色に塗りつぶされていました。（つづく）

会員の作品



筆ペン字
船橋市丸山 山田八重子



絵手紙
船橋市二和東 K.O



写真「初夏のかがやき」 印西市小倉台 伊久万里

生き生き友の会・地域の活動

春本番！気分も軽やかに健康づくり 4月

地区・委員会	開催日	企画内容	参加人数
松が丘	4/4	インターバル速歩	9人
高根台	4/5	アンデルセン公園散策	7人
松が丘	4/7	お花見	14人
白井	4/9	「足の握力測定からはじめる健康体操」①	27人
法典	4/13	あけぼの山農業公園チューリップフェスティバル②	28人
西高芝	4/14	「お花見 御滝公園 レッツゴー」	5人
法典	4/15	ペン字教室	24人
二和	4/16	散策「アンデルセン公園」	10人
鎌ヶ谷西	4/16	健康講座「介護保険のいま」	12人
丸山	4/20	ウォーキング 21世紀の森と広場③	8人
習志野台	4/22	健康講座「足の握力測定からはじめる健康体操&笑いヨガ」	14人
病院	4/22	オレンジカフェ	16人
御滝	4/22	書道を楽しむ会	4人
八木が谷	4/23	『いつでも元気』読者会	4人
御滝	4/23	散策「ジェラートを食べに行こう」	中止
鎌ヶ谷東	4/25	春のアンデルセン公園	8人

白井地区



法典地区



丸山地区

